

## 第44回大会 2011.8.8～8.9

会場；国立オリンピック記念青少年総合センター

8月8日(月曜日)

### ○ 開会式 (10時20分～10時30分)

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション(各会場にて)

#### 【10:30～12:10】

##### 1-A「聴覚障害児の評価と指導」

東京学芸大学 濱田 豊彦

聴覚障害があるとコミュニケーションが取れないだけでなく、言語獲得や社会性の発達に影響があると言われています。この講座では、オーディオグラムの見方や補聴器の効用と限界など、聴覚障害児教育における基本事項を踏まえつつ、言語獲得の課題について、最新の知見を含めわかりやすく解説します。また、発達障害のある聴覚障害児の実態と指導の工夫についても触れたいと考えています。

##### 1-B「言語発達遅滞の評価と指導」

東京学芸大学 藤野 博

言語発達遅滞には、知的障害や自閉症スペクトラムを背景とする場合や、音声言語のみに顕著な問題を示す特異的言語発達障害(SLI)などいくつかのタイプがあります。本講義では特異的言語発達障害と、自閉症スペクトラムにおける会話やコミュニケーションの問題に焦点を当て、統語・語彙・語用などの言語発達アセスメントの方法と指導プログラムの例について、事例も紹介しながら具体的に解説します。

##### 1-C「子どもを見る目・育てる心」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

言語臨床に携わるようになってから半世紀を過ぎました。この間、医学部付属病院での音声外来、教育学部での臨床授業や教育相談、知的障害者(児)施設でのカウンセリングなど、多岐にわたる事例から多くのことを学ばせていただきました。これらの体験とその間に得られた学問的な知識をもとに、これからの言語障害児教育をどのように進められたらよいかについて、私自身の考えを述べることにします。

#### 【13:20～15:00】

##### 2-A「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

この講義では、吃音の基礎知識と最新の知見をわかりやすく紹介し、これまでの研究成果をふまえた指導・支援のあり方について述べます。現在、我が国では教育実践や臨床の場において話し方に直接働きかける指導法の開発が求められています。そこで今回は、子どもたちの楽な話し方の指導につながる従来の知見と最新の知見を紹介します。指導の際に用いる単語や文の難易度についても最新の知見を踏まえて考えてみたいと思います。

##### 2-B「聴覚障害児の指導の実際」

横浜国立大学 舞園 恭子

通常の小・中学校で学んでいる難聴のある児童生徒のコミュニケーション能力について、「聞く・話す」を中心とする発達評価の観点について述べるとともに、発達段階に応じた支援の方法について、実際の指導事例を紹介しながら述べたいと考えます。また「聞く・話す」と「読む・書く」をしっかりとつなげる支援方法についても述べたいと考えます。

##### 2-C「事例検討の意義と進め方」

目白大学 羽田 紘一

言語障害児の指導を効果的に行うには、指導者の「子どもの問題の理解の仕方」「指導の方法・結果」の定期的な検証が必要です。その検証の方法としては、「事例検討・事例研究」を行うことが有効です。今回は、事例検討の実際的な手法として「短縮事例法」を紹介し、演者の提示する事例に基づいて演習を行います。参加者の体験を生かした実りある時間にしたいと思います。

#### 【15:20～17:00】

##### 3-A「構音障害児の評価と指導」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

正しい発音のベースは、巧みに動く口(発語器官)と正しい音を聞き分ける耳(聴覚能力)です。この2つの力が協働しながら正しい発音を獲得し、使いこなしていきます。発音を改善することは、この力がどのように育っているのか評価し、その評価に応じた指導を組み立てることです。この指導過程を具体的な教材教具を紹介しながらお話していこうと思います。

##### 3-B「吃音指導の実際」

金沢大学 小林 宏明

吃音がある子どもは、うまく話せないという話し言葉の問題に加えて、言語・認知・運動発達や情緒面の脆弱性の問題、吃音への不安や自己肯定感の低下などの心理面の問題、吃音に対する周囲の無理解やからかい等の環境面の問題などの様々な困難を抱えています。本講座では、これらに対する包括的な指導・支援の方法について、具体的な教材や事例の紹介を交えながら提案したいと思います。

##### 3-C「事例検討会～保護者支援を中心に」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

言語障害児教育を効果的にすすめるためには、子どもに対する直接的な支援だけでなく、保護者に対する支援も重要な役割を占めています。教育関係者から提供された事例をもとに、特に家庭にどのような配慮が必要なのか、会場の皆様と討議したいと考えています。事前に事務局宛に事例を送りいただいても結構ですし、当日会場で発表していただくことも大いに歓迎いたします。

8月9日(火曜日)

【9:15~10:55】

4-A 「言語発達遅滞の指導の実際」

東京学芸大学 大伴 潔

本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として「LCスケール」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

4-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅰ～歪み音の理解と聞き取り」

昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので慣れていないと聞き取りが難しく、現場で悩まれる先生方が多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法についてお話しします。はじめての先生方も是非ご参加ください。

4-C 「検査法の活用について」

國學院大学 石川 清明

コミュニケーションに障がいのある子どもの教育的診断や指導に広く用いられている「標準検査」をとりあげ、日々の指導場面で検査を活用するために必要な事柄の中から基礎的な事項を中心に学びます。経験年数が3年程度までの先生方を受講対象とし、検査結果の意義や信頼できる検査結果を得るために必要な事柄、検査結果から何が読み取れるかなどについて理解を深めます。

【11:10~12:50】

5-A 「言語障害児教育と幼児教育」

國學院大学 野本 茂夫

本講座では、言語獲得期にある幼児期の言葉の障害を中心に取り上げます。事例を通して幼児の言葉の発達が母子関係を中心とする人間関係と深い関わりがあることを確認します。そして、幼児期の言葉の獲得は、総合的な子どもの育ちの中でとらえていく視点の重要性を考察します。こうしたことから、幼児の言語指導は幼児教育の考え方と大変近いものがあり、言語障害児教育を人間が育つ基礎・基本を担う幼児教育の考え方からとらえ直し理解を深めます。

5-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅱ～舌を平らにする方法」

昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、細長く緊張します。そこで音の指導に先だって、舌を平らに保つこと、舌の横の感覚や舌尖のコントロール性を高める指導を行います。お口の体操をさらに進めた舌のトレーニング法についてお話ししたいと思います。実際に体験していただきたいので、鏡、舌圧子などをご用意ください。一緒に練習してみましょう。

5-C 「WISC-Ⅲの解釈と活用」

船橋小学校 大山 恭子

発達障害を持つ子どもに対して効果的な支援を行うためには、行動観察や検査等による適切な実態把握が不可欠です。そこで、WISC-Ⅲの検査結果の解釈の仕方を学び、生活上または学習上のつまづきの原因を様々な事例をもとに見立てていきます。また、その子どもの得意な認知能力を活用した具体的な支援の方法を、LDを持つ子どもの支援を中心にご紹介いたします。

記念講演 【14:00~16:10】

講師 宇野 彰 (筑波大学大学院)

演題 「発達性dyslexia(発達性読み書き障害)の評価と支援」

トム・クルーズがそうであることで有名な発達性dyslexia(発達性読み書き障害)は、学習障害(LD)の中核障害と考えられています。読み(音読)障害の正確性についての出現頻度はひらがなで0.2%、カタカナで1.4%、漢字で6.9%と報告(Uno et al. 2009)されています。一般に書いて覚える方法が推奨されますが、文字の習得が苦手な児童・生徒にとってその方法は有効ではありません。その理由や練習方法の考え方についてお話いたします。

講師略歴

・筑波大学大学院人間科学総合研究科准教授  
・専門分野は高次脳機能障害で、対象は小児から老人までである。検査法の開発、診断からリハビリテーション手法の開発、脳機能障害部位の推定、福祉に関して幅広く研究を行なっている。最近では小児分野での研究が中心であり学習障害児(特に読み書き障害児)や小児失語症児などが対象である。  
・宮城県仙台第一高等学校卒業後、音楽プロモーターを経験し、日本大学、大阪教育大学を経て昭和56年より、病院での言語聴覚士として大脳損傷者・児のリハビリテーションに携わる。  
・江戸川病院リハ科科長代行兼言語室室長。その後東京大学医学部客員研究員(現在も)。国立精神・神経センター精神保健研究所治療研究室室長を経て平成16年より現職。

○ 閉会式 次回大会のお知らせ 【16:10~】